

れいめいジフ

REIMEIJIN

2022/2学期



この青春を何と呼ぶ？

「れいめいジフ」は、れいめいで活躍する「れいめい人」を紹介しつゝ、
小中学生向けのイベント案内や、進路選択に役立つ情報をお伝えする広報誌です。

イベントスケジュール

event schedule

※日程や内容は変更になる場合があります。

入試に関するお問い合わせは
お電話で ※～平日17時まで



1/5(木) 中学校入試(前期)

1/23(月) 高校入試

2/4(土) 中学校入試(後期)

2/5(日) 高校合格者説明会



3/21(火) 入学説明会



公式ホームページ・SNSで情報発信中

本誌に掲載された活動の詳細も公開予定！



公式ホームページ



facebook



Instagram



「ものづくり」って
ワクワクするもの。

会社前の停留所でバスを待つ地域住民のために待合所を設置した芹ケ野さん。本校工学科の卒業生というご縁もあり、待合所の制作に、実習の場として本校工学科の生徒も参加させていただいた。

待合所は新聞等のメディアでも取り上げられ話題を呼んだ。今後はポンプを設置し小川を作り、併設したスペースを、生徒作品などを展示するギャラリーとして活用する予定。

生徒には「仕事」を学ぶ機会になったようだ。実習を終えた生徒たちは皆一様に「楽しかった」「勉強になった」と笑顔で話す。



株式会社 薩摩水道
代表取締役 芹ケ野裕史さん

工学科 2 年
大場 愛香さん
(串木野中出身)

工学科 2 年
久保 望さん
(朝日中出身)

工学科 2 年
有村 龍世さん
(川内中央中出身)



待合所制作の実習から少しして、工学科 2 年生の生徒三人とともに芹ケ野さんのもとを訪ねた。目的は、実習で見ることができなかった会社内部を見学し、芹ケ野さんの「働く環境」について話を聞くことだ。「ここ本当に会社なのかなと思いました。」久保さんの正直な感想だ。

会社の一階は、かつて倉庫だった。そこを改装し、職人さんたちと協力しながらジムやシミュレーションゴルフの部屋を少しずつ作り上げた。社員や地域の人が交流するスペースとなった。細部まで遊び心の詰まった空間だ。すでにあるものを利用したり、100円ショップの商品を使用したりする一方、随所に素人にはまねできない職人の技術が活かされている。芹ケ野さんは少年のような笑顔で、一つ一つを説明していく。

「『すげえ楽しい場所だな』って感じてもらえれば、『ここに仕事を頼もう』ってお客さんも思ってくれる。」芹ケ野さんは自分たちがワクワクするものづくりが仕事につながっていくと教えてくれた。

水田さんは心の安定を重要視している。「私は、得点力が課題なんです。大事な場面で決められないこともありました。逆に、調子の良いときは強い気持ちでコートに立てたときですね。」

キャプテンになることへの不安もある。「県総体は3年生の力がすごく大きくて安心感がありました。だから、そんな存在になれるか不安でした。でも、キャプテンを決める前に、2年生は一日交替でキャプテンを経験しました。それで、一人に任せないでみんなで考えようって意識が生まれたと思います。みんながそう思ってくれているので、私もみんなを頼って行こうと思っています。」

指示を出した後は、本当にそれでよかったのかと不安になることもあるという水田さん。しかし、一人で不安を抱え込まなくてもいい環境がある。チームメイトを頼ることで得られる安心感がいいプレーにつながっていくようだ。



中学校 2 年
水田 流菜さん
(国分西小出身)

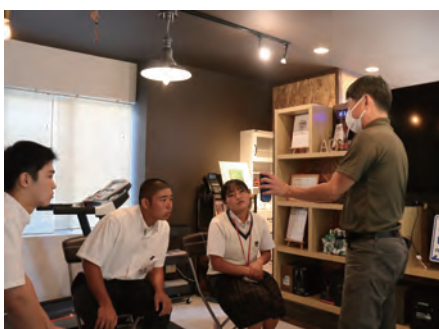


芹ケ野さんはジムに設置されたモニターで YouTube を視聴しながら、次の計画を語ってくれた。自然エネルギーを利用したポンプで、待合所の前に小川を作りたいという。しかし、何度も失敗してまだ成功のめどはたっていない。「失敗してもいいんです。」今は YouTube など様々アイデアに手軽に触れられる時代。やってみait と思ったことにどんどん挑戦するのだ。



現在、夢が決まっていないという有村さん。芹ケ野さんは夢を持っていない人がいて当たり前前だという。「高校生の時は勉強が大嫌いでした。社会人になって仕事を任されるようになって、自信がついてきて、人の役に立ちたいという思いにつながりました。40代でもいくつになっても夢は見つかります。今僕は、次にやりたいことがたくさんあります。仕事ができるようになれば、楽しくなって、自分の力で夢が叶うようになって、自由になれるんです。」

芹ケ野さんにとって、企業が高校生や地域とつながっていくことも夢の一つだ。「地元の高校生がやるから意味があるんです。」活動が地域で話題を呼び、人と人がつながっていくのだ。



建築関係の仕事に就きたいという有村さん。女性社員のことも聞きたくてやってきた。「例えばウチなら、二名の女性社員が活躍しています。水回りのことは女性のアイデアがすごく大切なんです。」芹ケ野さんは、女性だからその目線や考えを活かすことができるかと強調する。人によって活躍の仕方は様々なのだ。

自分たちにしか作れないチーム



中学校 2 年
山下 珠温さん
(亀山小出身)

2 年生は、山下さん含めて 3 人。これから 3 人でチームをまとめていけるのかという不安もある。しかし、3 人しかいないからこそ良いこともあるのだと言う。

「常に 3 人で話して考えられるのは良いですね。人数が少ないから不安もあります。でも、そういう状況だからこそできるチームの形があると思います。」

山下さんたちは一つずつ、少しずつ、自分達のチームを形にしていく。

中学二年、山下珠温さん。先輩たちの凄さを教えてくれた。

「先輩たちは、オフセンスもすごいけどみんなディフェンスがうまいんです。技術もそうですが、抜かれてもすぐに食らいつく体力に驚いてました。僕はまだまだ体力が足りてないですね。」

練習で走ると、毎回のよう先輩たちに離されてしまったという山下さん。今は、新チームのあるべき形を、先輩たちの姿を見て模索してる途中なのだという。

「体力も技術もまだまだ足りないけど、一つずつ取り組んで、また優勝を勝ち取りたいです」

